

突然死を防ぐ 心肺蘇生法が

より 助けやすく！ より 分かりやすく！ 変わりました

胸痛を訴え急に倒れた時や、食べ物をのどに詰まらせ呼吸や心臓が止まった時、すぐに心肺蘇生法などの救命処置を始めなければ、命を救うことが出来ないのは皆さんご存知だと思います。

このたび、その心肺蘇生法が、より助けやすく、より分かり易く変わりました。

普段通りの息をしていなければ

脈の確認はせず ただちに → (人工呼吸2回
心臓マッサージ30回)



消防飯館分署では、このほど白石小6年生の道徳授業で「命の大切さ」について講話しました。話を聞いた後の子どもたちの率直な気持ちををご紹介します。



▲授業のようす

○家族に、もしものことがあったら自分が家にいる時は家族のために頑張りたいと思います。

○ほんの少しの時間で、人の命が助かるかどうかが決まるのがとても良く分かりました。親からもらった命を大切にしたい、まだまだ先の長い一度だけの人生を大切にしたいと思いました。

○私の命も大切にされているなら、私も誰かの命を1人でも救ってあげたい、と勉強になりました。きっとこういう気持ちの人が世界中にいるのなら平和かな…って思います。

○もし餅が詰まったら、救急車を呼ぶのはいいけど、それまでに自分で出来る事があるということが分かりました。1人の命が助かるならば私は助けたいです。

家族を思う子どもたちの気持ちが伝わってくる言葉です。

大切な人を助けたい。あなたのその気持ちと手2本があれば救う事ができます。

ぜひ、新たな心肺蘇生法の講習会を受講してください。

ご近所、お友達など少人数でも構いませんので、お気軽にご連絡ください。



ガマンは悪化させます！

これから寒くなってくると、体調を崩される方が多くなってきます。

脳梗塞は発症から3時間、心筋梗塞は6時間で治療を終えなければ重大な後遺症を残すことになります。突然、ろれつが回らない、片方の手足がしびれる、バランスがとれずまっすぐに歩けない、胸が締め付けられる症状が30分以上続くなど、何か身体の違和感がみられる時は我慢せず早めに専門医に受診することをおすすめします。

また、高齢者や乳幼児は発熱や下痢により脱水を起こし、ぐったりして重症化することがあります。救急車の要請はもちろんですが、消防署では病院の案内もしていますので、診療時間外であれば飯館分署 (☎ 42-0119) へご連絡ください。